

山形村埋蔵文化財調査年報

(平成9年度 国庫補助事業)

淀の内遺跡 第2次調査

中町立道西遺跡 第1次調査試掘

洞遺跡 第3次調査(試掘)

下耕地遺跡 第2次調査(試掘)

1998

長野県山形村教育委員会

はじめに

村民憲章に謳われるように、山形村は豊かな自然と肥沃な大地に抱かれ、永い歴史と先人の英知によって築かれた教育と文化の伝統ある村であります。村内ではその恵まれた条件を生かした農作物が盛んに栽培される一方で、生活環境の近代化も土地利用計画に基づき、自然との調和を図りながら進められています。わたくしたちの生活を進歩させるうえで重要な開発も、時として今日の山形村を築き上げた先人達の生活が刻み込まれた遺跡の上にも及ぶことがあります。遺跡、埋蔵文化財の保護は歴史・文化の正しい理解に欠かすことのできないものであり、貴重な文化遺産を無造作に破壊することがあってはなりません。

本報告書は、平成9年度に国庫補助をうけて開発行為に先立ち実施された埋蔵文化財発掘調査の記録であります。我が村の歴史・文化の理解に少しでもお役に立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施及び報告書の作成にあたり、関係各位の御協力と御指導を賜りましたことに対し心から感謝申し上げます。

平成10年3月

山形村教育長 上 條 光 男

例 言

- 1 本報告書は、開発事業における事前の埋蔵文化財試掘確認調査及び、個人開発における事前の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は山形村教育委員会において実施し、発掘作業・遺物整理にあたっては下記の方々のご協力を得た。記して謝意を表する。(敬称略、50音順)

太田 義一 大塚 恭子 小野 邦美 小野 圭子 上條 忠昭 上條 信義
上條 賢憲 小林弥寿枝 直井由加星 中村 文夫 百瀬 時雄 八坂 千佳

- 3 本書の執筆・編集は和田が行った。なお、現地調査及び出土遺物について下記の方々から有益な御教示、御指導を賜った。記して厚くお礼申し上げる次第である。(敬称略、順不同)

樋口 昇一 直井 雅尚 平林 彰 小口 達志 竹原 学 藤森 英二

目 次

はじめに 例言 目次	
淀の内遺跡 第2次調査	2
中町立道西遺跡 第1次調査試掘	23
洞遺跡 第3次調査(試掘)	26
下耕地遺跡 第2次調査(試掘)	27
写真図版	

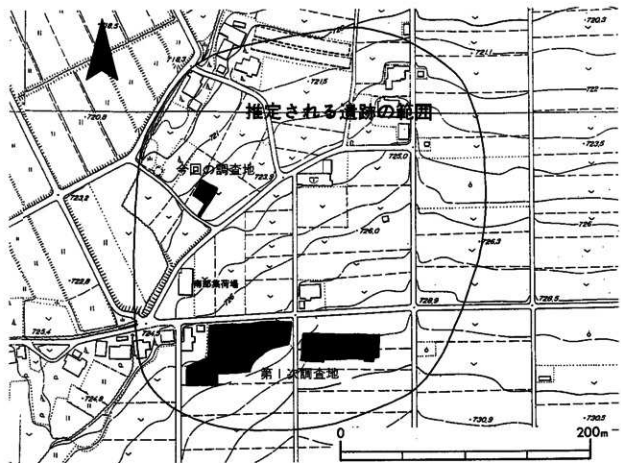
淀の内遺跡 第2次調査

対象地	長野県東筑摩郡山形村468-1
調査期間	平成9年9月1日～平成9年10月8日
開発対象面積	500㎡
発掘面積	280㎡
調査原因	個人宅地開発事業

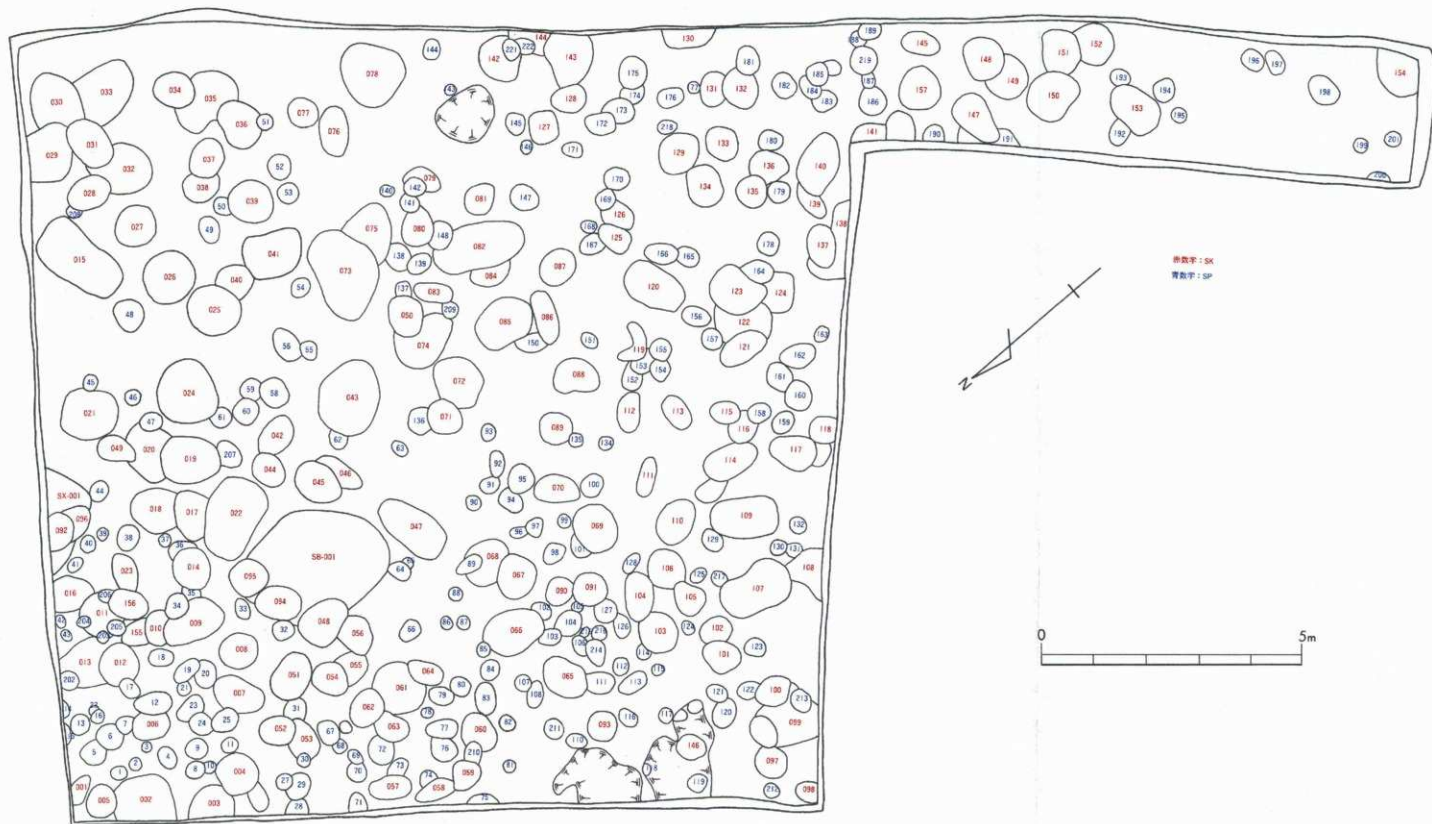
1 はじめに

上大池区洞地籍の湧水を源とする小河川沿いには、洞遺跡、下耕地遺跡、淀の内遺跡、野際遺跡など縄文時代中期の遺跡が知られている。その中でも本遺跡は、平成4年に住宅団地開発事業に伴う第1次調査によって縄文時代中期後半を主体とする環状集落跡であることが判明していた。

今回は第1次調査区から北へ100m程離れた畑地の一角で個人宅地開発が計画されたため、記録保存を目的とし、環状集落が北側へ広がっていることを推測して発掘調査を実施した。調査区は建物と上下水道管が埋設される予定地を覆う形で設定した。



第1図 淀の内遺跡全体図 (S=1/3,000)



第2図 瓷の内遺跡第2次調査 遺構全体図 (S-1/60)

2 調査の結果

調査地は、約40cmの耕作土を除去すると次山のローム層に至る。表土除去は重機によってこのローム層の上面まで行い、人力によって遺構検出、掘り下げ作業を行った。また長草が栽培されていたため、調査区の全域にわたって幅15cmの溝が1m間隔で掘られ攪乱されていた。なお、調査にあたっては煩雑になるためこの攪乱の掘削は行っておらず、遺構図に場所を記入するにとどめた。本報告書の遺構図には必要な部分についてのみ表現してある。

1) 検出された遺構

I 住居址

今回の調査区には、第1次調査で検出された環状集落の北側が及ぶのではないかと推測していたが、住居址は1件しか発見されず、環状集落の規模がやや狭まること分かった。

● SB-001

調査区の北寄りに位置し、北側でSK-048・094・095に切れ、SP-064を切る。覆土は2層に分けることができたが、最深部でも15cm程しか残存しておらず遺存状態は良くない。床はローム層を掘り込みそのまま床面としているが、踏み締められた痕跡もなく軟弱である。炉は住居址の北東にやや寄って設置されている。細長の石を4つ組み合わせた1辺60cm余の方形石囲い炉であったと思われるが、南東の1石は攪乱によって残存していなかった。ピットは南側に6つ確認され、P1のみが深さ50cmと深いが、他は10cm前後と浅く上層構造を推測することはできない。床面に接する形で曾利IV式の深鉢(第6図13)が出土しているが遺物の量は少ない。プランは不整楕円形で2.6m×2.2mを測るが、かなり小さな住居址の印象を受ける。

II 土壌・ピット

調査区の全域にわたって土壌157基、ピット221基が検出された。その大半は遺物の出土が見られないか小片であるため帰属時期の決定をできないが、出土した土器は縄文時代中期初頭のものが多く2、3を除いては縄文時代中期の館崎に入るため、おおむねがこの時期と思われる。報告書作成にあたっては、数が多いためすべてを図示・記述することは困難なため、埋設土器が見られたもの、礫の出土を見たもの等特徴的なもののみを抽出し、その他については一覧表に規模・形状・出土遺物・時期などを掲示することとした。また、検出された土壌・ピットの性格については、決定的な証拠を残すものが僅少であるため十分な分析にまで至ることができていない。以下いくつかの土壌について見ていきたい。

● SK-007

100cm×67cmをはかり、東側は2段に40cm余掘り込まれている。底から10cm前後浮いた位置から重なるような状況で土器(第6図1~3)・磨製石斧(第9図17)が出土したが、完形の土器はなく、総てが破片資料であるため投げ込まれた遺物と考えられる。時期は出土した土器から縄文中期中葉新道式期に帰属するものと考えられる。

● SK-011

123cm×107cm×14cmをはかり隅丸形状を呈する。横倒しの形で中期初頭梨久保式I段階の深鉢(第

6 図 4) が出土した。土器の底部は SP-205 に切られ残存していない。

● SK-022

153cm×105cm×30cm で、北側は 2 段に 5cm 程掘り込まれている。中央部より拳大～人頭大の石が 10 個程、底に接する形でまとも出土した。石の間からは土器片が 5 点 (第 6 図 9、第 9 図 7～9) 出土したが土壌の性格は分からない。中期初頭梨久保式に帰属するものと考えられる。

● SK-031

98cm×69cm×50cm をはかり、楕円形状を呈する。西壁寄りに完形の浅鉢 (第 6 図 5) が逆位で出土した状況から見て甕被葬墓と考えられる。浅鉢内の土は黒色で、耳飾などの装飾品は見られなかった。また、浅鉢内面には朱の塗布が認められた。時期は縄文後期に帰属すると考えられる。

● SK-035

調査区の東端に位置し、132cm×115cm×40cm をはかる。SK-034・036 に切られてはいるものの、今回の調査で唯一明瞭な柱痕が認められた遺構である。柱痕の直径は 35cm 程度で、柱が抜き取られた痕跡は断面観察から認められなかったので柱の直径も同程度と思われる。また意識して掘り下げてはいないが、土器片 (第 9 図 12～16) は壁に寄った位置から出土したので、柱が立てられた時期は梨久保式を溯らないと考えられる。

● SK-134

75cm×60cm×45cm をはかり楕円形状で、断面は袋状を呈する。覆土は 6 層に分けることができたが不自然な埋没状態で、2 層はロームブロックが見られないのに対し、3 層・4 層を中心にロームブロックが見られ、人為的な埋戻しがされた状況を伺える。また断面形状から、貯蔵穴としての機能が考えられるため、2 層が貯蔵されたものと解釈して良いのだろうか。時期は出土土器から中期初頭梨久保式と思われる。なお、袋状を呈する土壌として SK-129・133 がある。

● SK-145

61cm×45cm×34cm をはかり、南東側が張り出す不整形円形をなす。北西壁に沿う形で土器片 (第 7 図 16) が出土した。時期は梨久保式 II 段階のものである。

● SK-150

103cm×90cm×16cm をはかり、南西隅に深さ 15cm のピットを有す。土器の出土は見られなかったが、2 つに割られた磨石が床面より 4cm 余浮いた状態で離れて出土した。覆土は単層でロームブロックが多く見られたため一度に埋め戻された状況が伺える。磨石を埋設した祭祀的土壌と思われる。

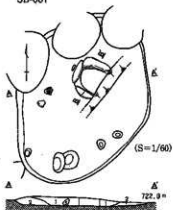
● SP-084

直径 40cm、深さ 36cm をはかり、礫や土器片 (第 7 図 20)、磨製石斧 (第 9 図 18) が出土したが、完形品が見られないので礫と同時に投げ込まれた遺物と考えられる。なお、同じ状況を呈する遺構として、SP-100・165 がある。

● SP-073

調査区の西隅に位置し、51cm×37cm×35cm をはかる。深鉢 (第 7 図 17) を正位に埋設した遺構と考えられるが、SK-057 に切られた際、口縁部を 3/4 程失っていた。時期は中期中葉藤内 II 式に帰属するものと思われる。

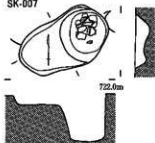
SB-001



SB-001

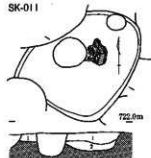
- 1: 10YR3/2 基輪 跡残り・粘性なし 1cm程度のロームブロック・痕少し含む
 - 2: 10YR3/3 埴輪 跡残り・粘性ややあり ローム塊・跡含む
- SB-001B
- 1: 10YR2/2 基輪 跡残りややあり、粘性あり ローム塊・跡含む
 - 2: 10YR3/3 埴輪 跡残り・粘性なし 粘土を含む
 - 3: 粘土

SK-007



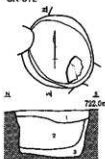
- 1: 10YR3/3 埴輪 跡残り・粘性なし 1cm程度のロームブロック・痕含む

SK-011



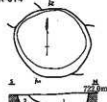
- 1: 10YR3/3 埴輪 跡残りなし、粘性ややあり 5cm程度のロームブロック多く含む
- 2: 10YR4/3 土のう・灰層 跡残りややあり、粘性あり 痕含む

SK-012



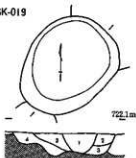
- 1: 10YR2/1 基 跡残りあり、粘性ややあり 5cm程度のロームブロック・痕含む 遺物はこの層に集中
- 2: 10YR3/2 基輪 跡残り・粘性なし 0.5~2cm程度のロームブロック多く、痕含む
- 3: 10YR3/1 埴輪 跡残り・粘性あり 0.5cm程度のロームブロック・痕含む

SK-014



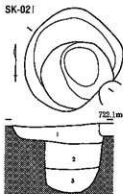
- 1: 7.5YR2/1 基 跡残り・粘性あり 2~3cm程度の岩多く含む
- 2: 10YR2/3 埴輪 跡残りなし ロームブロック含む

SK-019



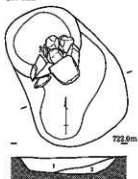
- 1: 10YR2/3 基輪 跡残り・粘性あり 2cm程度のローム塊少し含む 土層はこの層から
- 2: 10YR2/2 基輪 跡残りあり、粘性ややあり 5cm程度のロームブロック少し含む
- 3: 10YR2/2 基輪 跡残り・粘性あり 5cm程度のロームブロック少し含む
- 4: 10YR2/2 基輪 跡残りあり、粘性ややあり 5cm程度のロームブロック多く含む

SK-021



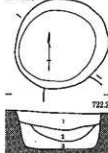
- 1: 10YR3/2 基輪 跡残りややあり、粘性あり 5cm程度のロームブロック・痕含む
- 2: 10YR1/2 基輪 跡残りややあり、粘性あり ロームブロックを1層より多く含む
- 3: 10YR3/2 基輪 跡残りあり、粘性強 5cm~2cm程度のロームブロック多く含む、痕含む

SK-022



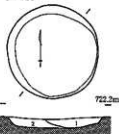
- 1: 10YR3/1 基輪 跡残りあり、粘性ややあり 1cm程度のロームブロック少し含む
- 2: 10YR2/2 基輪 跡残りあり、粘性ややあり 5cm程度のロームブロック・痕少し含む

SK-025



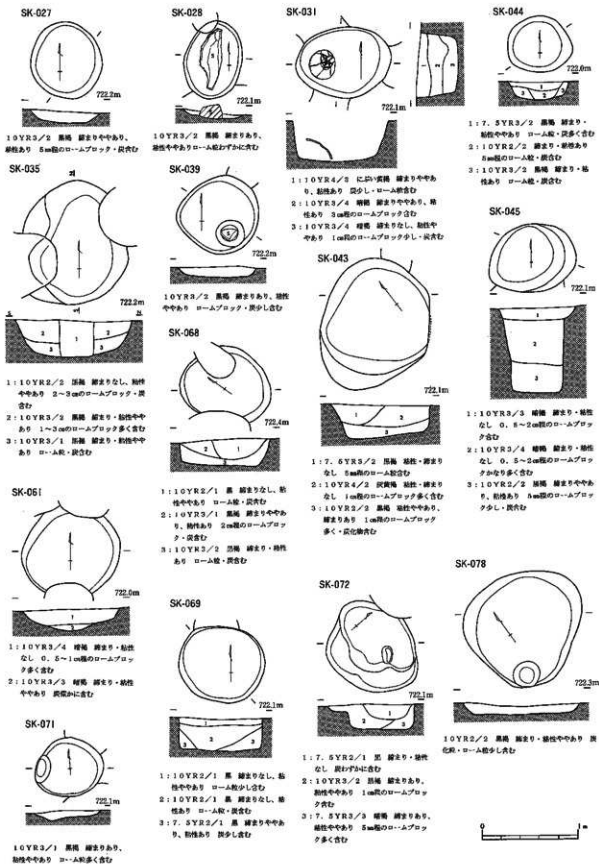
- 1: 10YR3/3 埴輪 跡残り・粘性なしローム粒多く含む、痕含む
- 2: 10YR3/4 埴輪 跡残りなし 1cm程度のロームブロック・ローム粒多く含む
- 3: 10YR3/4 埴輪 跡残り・粘性あり 1cm程度のロームブロック・ローム粒多く含む

SK-026

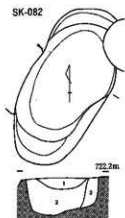


- 1: 10YR3/4 埴輪 5cm程度のロームブロック少し含む
- 2: 10YR3/3 埴輪 跡残りなし 痕少し含む

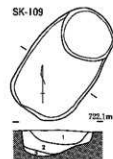
第3図 住居址・土層 (1)



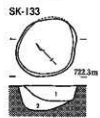
第4図 土 壌 (2)



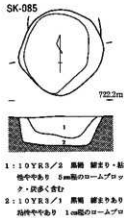
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり・粘性や
あり ローム粒数に含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性や
あり ロームブロック含む 透物はこの層
に集中
- 3: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性や
あり ローム粒多く含む



- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性
やあり 2~3mmのローム粒・密含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 締まり・粘性
あり 5mm粒のローム粒含む
- 3: 10YR3/3 暗褐 ロームと黒
色土の混合層



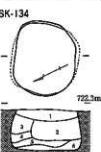
- 1: 10YR2/2 黒褐 締まり
粘性やあり 2~3mmのローム
粒・減少し含む
- 2: 10YR2/1 黒 締まりあり
粘性やあり ローム粒・密含む



- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘
性やあり 5mm粒のロームブ
ロック・粒多く含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 締まりあり
粘性やあり 1cm粒のロームブ
ロック含む



- 1: 10YR3/1 黒褐 締まりあり
粘性やあり 2mm粒のローム粒含む
- 2: 10YR3/2 黒褐 締まり・粘性
やあり 2~3mmのローム粒含む
- 3: 10YR3/1 黒褐 締まりや
あり、粘性あり ローム粒・密含む



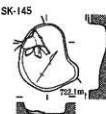
- 1: 7.5YR3/1 黒褐 締まりあり、粘性
やあり ローム粒数に含む
- 2: 10YR2/1 黒 締まりなし、粘性
やあり 含む
- 3: 10YR2/2 黒褐 締まりなし、粘性
やあり 1cm粒のロームブロック含む
- 4: 10YR2/1 黒 締まりなし、粘性あり
5mm粒のロームブロック含む
- 5: 10YR3/4 暗褐 締まり・粘性
やありローム粒多く含む
- 6: 10YR1.7/1 黒 締まりあり、粘性
1cm粒のロームブロック少し含む



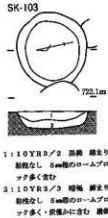
- 1: 10YR2/1 黒 締まり・粘性
なし ローム粒少し含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 締まり・粘
性なし 例多量に含む
- 3: 10YR3/1 黒褐 締まり・粘
性やあり ローム粒多く含む



- 1: 10YR3/3 暗褐 締まりなし、粘
性やあり 3mm粒のローム粒多く含む
- 2: 10YR3/1 黒褐 締まりあり、粘
性やあり 3mm粒のローム粒・密含む



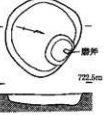
- 10YR2/2 黒褐 締まりや
あり、粘性あり ローム粒・密・粘
土を含む



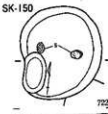
- 1: 10YR3/2 黒褐 締まり・
粘性なし 5mm粒のロームブ
ロック多く含む
- 2: 10YR3/3 暗褐 締まり・
粘性なし 5mm粒のロームブ
ロック多く・透物に含む 透物
はこの層に集中



- 1: 7.5YR3/1 黒褐 締まり・
粘性やあり ローム粒少し含む
- 2: 10YR2/1 黒 締まりあり
粘性やあり ローム粒・密含む



- 10YR3/2 黒褐 締まりなし、
粘性やあり 2~3mm粒のローム
ブロック含む



- 10YR3/1 黒褐 締まりなし、
粘性やあり 0.5~1cm粒のロ
ームブロック多く含む



第5図 土 壌 (3)

淀の内遺跡検出遺構一覧表

検出番号	北緯	東経	検出内容	検出時期	検出位置	検出状況	検出内容	検出位置	検出状況
-001	59	35	28	溝内跡	e	>SK-905		第 2・3	不明
-002	115	29				<SK-904			不明
-003	84	21				<SK-904		8	資料 1
-004	79	76	44	円形	e	>SP-188 >SK-903		第 1・2	耐久層 1
-005	65	57	63	円形	e	<SK-905			不明
-006	75	32				<SP-997 >SK-912			耐久層 1
-007	109	67	45	溝内跡	e	>SP-920-925		1~3, 第 1・7	新築式
-008	74	87	64	円形	e				不明
-009	124	76	38	溝内跡	a	<SK-913, SP-920 >SP-924			石瓦片類
-010	54					<SK-250 >SK-909, SP-924			耐久層 1
-011	123	107	14	溝内跡	a	<SK-913-914 >SK-156, SP-109-924-205-206			耐久層 1
-012	84	75	47	円形	d	<SK-913 >SP-917		4	片断瓦類 (遺構未定)
-013	75	31	14			>SK-911-912, SP-202-203			不明
-014	62	74	17	円形	a	<SP-995-998		第 2・4	耐久層 1
-015	176	109	20	溝内跡	a				
-016	67	25				>SK-911			不明
-017	95	18				<SK-912 >SK-920			不明
-018	67	36				>SK-917			不明
-019	121	98	18	溝内跡	a	<SK-920, SP-997			不明
-020	63	14				>SK-919-945, SP-947		第 5・6	耐久層 1
-021	136	85	68	溝内跡	e	>SP-945		第 2・3	不明
-022	138	155	30	溝内跡	e	>SK-917		9, 第 7~9	耐久層
-023	47	32				>SK-136		第 1・5	不明
-024	121	113	36	円形	a	<SK-940			
-025	100	94	40	円形	c	<SK-940			
-026	141	96	13	円形	a				
-027	83	82	18	円形	a				
-028	84	65	10	溝内跡	a	<SK-922 <>SP-998			耐久層
-029	106	27				<SK-930 >SK-931			不明
-030	94	23				<SK-933 >SK-931-939		第 9	不明
-031	98	69	26	溝内跡	c	<SK-929-206-932-933		5	瓦類片断
-032	98	31				>SK-928-931		第 1・1	耐久層
-033	100	51				>SK-935-933			不明
-034	77	65	68	円形	e	<SK-935			不明
-035	122	115	63	円形	b	>SK-934-936			耐久層 1
-036	62	76	14	穴掘り跡	a	<SK-935 >SP-951			不明
-037	75	76	17	円形	a	<SK-938			不明
-038	74		14			>SK-937			不明
-039	80	80	22	円形	b	<SP-950		1・6	耐久層 1
-040	62					>SK-929-943			不明
-041	113	98	53	穴掘り跡	e	<SK-946			耐久層 1
-042	84	67	28	溝内跡	e	>SK-944			不明
-043	142	114	26	溝内跡	e	<SP-962		第 1・7	耐久層
-044	79	58	24	溝内跡	a	<SK-942		第 9	不明
-045	74	72	37	溝内跡	f	<SK-948			耐久層 1
-046	89		10			>SK-945			不明
-047	143	71	26	溝内跡	b			第 4	不明
-048	98	77	17	溝内跡	a	<SK-956 <>SP-994			不明
-049	72	48	26	溝内跡	c	<SK-929			不明
-050	85	75	29	円形	a	<SK-974, SP-137			不明
-051	90	29	20	溝内跡	a	<SP-631			不明
-052	68	54	26	溝内跡	c	<SK-963, SP-931			耐久層 1
-053	68	28	30			<SP-991 >SK-965, SP-939			不明
-054	69	58	20	円形	e	<SK-965			不明
-055	63	15				>SK-964-968			不明
-056	60	9				<SK-965 >SK-968			不明
-057	82	47	17	溝内跡	a	<SP-972			不明
-058	79	40	42	溝内跡	c	<SP-974			不明
-059									
-060	76	67	34	円形	a	<SP-210			不明
-061	104	59	22	円形	a	>SK-962-963-964		第 1・8	耐久層
-062	77	59	19	溝内跡	b	<SK-961-963			不明
-063	98	68	29			<SK-961, SP-972 >SK-962			溝内 1
-064	73	42	29	溝内跡	b	<SK-961			不明
-065	95	65	22	溝内跡	e	<SP-111		1・4	不明
-066	120	85	14	溝内跡	a	<SP-182, >SP-985			不明
-067	85	79	14	円形	a	<SK-966			不明
-068	98	39	29			>SK-967, SP-989			不明
-069	92	36	29	円形	c	<SP-121		第 1・5・6・7	柱穴
-070	87	68	25	不審円形	b				耐久層 1
-071	72	62	8	円形	b	<SK-972, SP-126		第 1・8	不明
-072	95	56	53	円形	a	>SK-971		第 1・2~2・9	溝内 1
-073	175	113	45	溝内跡	b	<SK-975			不明
-074	127		25			>SK-956, <>SP-209			柱穴
-075	25	25	21			<SP-138 >SK-976			不明
-076	65	64	68	溝内跡	c				不明
-077	63	55	18	円形	b				不明
-078	128	114	24	円形	b			第 2・9	新築式 (大衆行式)
-079	74	45	9	溝内跡	a	>SP-142		第 2・4	耐久層 1
-080	67	26				<SP-149 >SP-141		1・1	溝内 1
-081	65	58	17	円形	a				不明
-082	140	40	4	溝内跡	b	<SK-984 >SP-148		第 2・5~2・6	耐久層
-083	74	35	29	溝内跡	e	<SP-209			不明
-084	65		10			>SP-982			不明
-085	112	92	28	溝内跡	b	<SK-985			新築~溝内
-086	136	43				<SP-150			不明
-087	72	61	15	円形	a				不明
-088	88	59	40	溝内跡	e			第 1・1	耐久層
-089	84	60	20	円形	e	<SP-135			耐久層
-090	60	54	24	円形	c	>SK-981			不明
-091	66	46	18	円形	a	<SK-990, SP-105-137		第 1・2~3・4	耐久層
-092	79	71				<SK-986, SK-991			不明
-093	69	58	16	円形	b				不明
-094	81	64	60						不明
-095	68	66	17						不明
-096						<SK-991 >SK-992			不明

品名	単位	数量	寸法	材料	仕様	備考	取付位置	取付
SK-097	個	60	20	円形	a	>SK-140		不明
-098								
-099	134	43				>SK-101, SP-213		
-100	70	34	溝円形	e	<SK-009, SP-120		取付5	扉内1
-101	70	60	22	円形	a	<SK-100		
-102	60	50	27	溝円形	e	<SK-101		溝状
-103	80	60	21	円形	a	<SP-114 >SK-104		溝状
-104	85	55	15	溝円形	a	<SK-100		
-105	67	36	7	円形	b	<SK-100		
-106	75	71	20	円形	e	>SK-106		不明
-107	140	80	38	溝円形	b	<SK-100, SP-317		取付1・19 取付6 取付2・3
-108								不明
-109	133	76	52	溝円形	e	<SP-119		
-110	90	66	23	溝円形	a			不明
-111	78	50	7	溝円形	a			不明
-112	74	45	7	溝円形	a			
-113	65	40	30	溝円形	a			
-114	105	80	30	溝円形	b	<SP-110 >SK-116		扉内既
-115	85	45	20	溝円形	b	<SK-116		
-116	63	50	50	溝円形	c	<SK-114 >SK-113, SP-116		
-117	93	70	19	溝円形	a	<SP-149		
-118	60	31				<SP-149		
-119						<SP-153		
-120	130	75	66	溝円形	a		1.6・取付9	扉内
-121	90	50	19	溝円形	a	<SK-122		不明
-122	110					<SK-124 >SK-121・123, SP-157		
-123	105	90	25	円形	b	<SK-119・124		
-124	80	11				>SK-122・123, SP-164		不明
-125	68	44	22	溝円形	a	<SK-118, SP-167		取付6
-126	65	27				>SK-125, SP-169		
-127	80	55	36	円形	c			
-128	87	50	20	溝円形	c			不明
-129	17	74	43	円形	c	<SK-134		不明
-130	103	16						
-131	65					<SK-117 >SK-119		1.3
-132		70	17			<SK-131 >SP-181		扉内既
-133	70	62	24	円形	c			取付0~4.2
-134	75	60	45	溝円形	c			取付6 取付1
-135	80	60	16	円形	a	<SK-130		6 扉内1
-136	64	23				<SP-180 >SK-115		
-137	85	55	17	溝円形	a	<SK-136, SP-160		
-138	148	23				>SK-137, SP-160		不明
-139		40	20			>SK-140		不明
-140	120	80	22	溝円形	b	<SK-139		7 扉内1
-141			24			<SK-143		不明
-142	92	81	13	円形	a	<SK-144, SP-180 >SP-180		不明
-143	110	80	27	溝円形	a	<SK-144 >SK-138		不明
-144	9					>SK-142・143, SP-180・180		
-145	61	45	34	溝円形	c	<SK-097・099		1.6・取付3 取付6 取付1
-146	80	50	25	溝円形	f			不明
-147	105	60	28	溝円形	a	<SP-191		
-148	85	80	13	円形	b	<SK-149		取付6
-149	45	19				>SK-148		不明
-150	105	90	30	円形	b	<SK-151		不明
-151	85	85	9	円形	a	<SK-152 >SK-150		不明
-152	70	70	25	円形	b	>SK-151		不明
-153	100	69	26	溝円形	a	<SP-192・193		不明
-154	110	70	75	溝円形	e			取付1.3・取付4~4.8 取付6
-155		45	28			>SK-010, SP-205		
-156	75	10	39	溝円形	a	<SK-011・023, SP-206		
-157	85	60	20	円形	b			
SP-081	30	28	27					取付6
-082	26	23	28					
-083	29	29	17					
-084	42	35	23					不明
-085	47	44	19			>SP-006		
-086	46	46	26			<SP-005 >SP-007		
-087	46	30	21			<SP-006 >SK-006		取付4.9
-088	37	34	20			<SP-010		
-089	47	40	18					不明
-090		24	13			>SP-008		
-091	35	30	25					
-092	70	44	21			<SK-008		不明
-093	40	34	41					
-094								
-095	38					<>SP-022		
-096	35	30	30			<SK-012		取付7
-097	47	31	35					
-098	57	32	27			<SP-020・021		
-099	53	23	19			<SK-007 >SP-019		
-100		20	9			>SP-018		
-101								
-102								
-103	39	31				>SP-024		
-104	45	40	16			<SP-023 >SP-025		
-105	55	41	8			<SK-005, SP-021		
-106								
-107	30	30	17			<SP-029		
-108	45	19				>SP-029		取付3
-109	54	7				<SP-028 >SP-027		
-110	27	15	6			<SK-053		
-111	42	42	21			>SK-051・050・050		取付1
-112	38	27	26					不明
-113	42	17	21					
-114	50	44	13			<SK-009・016, SP-005		
-115	36	6				>SK-008・014, SP-004		
-116						>SK-014		
-117	25	23	16					

品名	単位	数量	品名	単位	数量	品名	単位	数量	品名	単位	数量	品名	単位	数量	品名	単位	数量
SP-038	58	40	36														
-039	24	23	20														
-040	35	38	28														
-041	52	22	10														
-042	26	11	18														
-043	24	18	12														
-044	41	52	38														
-045	23	20	12														
-046	30	22	25														
-047	43	34	28														
-048	60	54	48														
-049	20	27	19														
-050		36	13														
-051	34	30	22														
-052	47	47	35														
-053	48	38	31														
-054	40	54	22														
-055	37	22	21														
-056	70	49	21														
-057																	
-058	53	50	30														
-059	42	41	43														
-060	51	47	30														
-061	45		24														
-062		54															
-063	33	22	17														
-064	46	35	36														
-065		23	19														
-066	46		33														
-067	50	49	32														
-068	30	28	15														
-069	33	25	8														
-070		27	24														
-071		35	25														
-072	57	43															
-073	51	27	30														
-074		32															
-075			15														
-076	37	45	31														
-077	40	36	22														
-078	24	19	14														
-079	50	30	13														
-080	17	35	27														
-081	18	24	18														
-082	32	29	25														
-083	61	40	20														
-084	42	38	20														
-085	28	27	5														
-086	27	21	25														
-087	25	23	22														
-088	27	25	11														
-089	14	30	23														
-090	30	29	20														
-091	42	30	9														
-092	53	30	15														
-093	10	27	23														
-094	20	38	20														
-095	58	51	19														
-096		21	21														
-097	27	33	12														
-098	40	40	27														
-099	39	24	5														
-100	50	40	20														
-101			10														
-102	39	30	4														
-103	45	35	8														
-104	50	45	20														
-105		20	20														
-106	45	28	10														
-107	48	34	12														
-108	54	33	7														
-109																	
-110	41	30	24														
-111		40	25														
-112	35	21	17														
-113	67	34	34														
-114		28	18														
-115	20	20	20														
-116	28	28	21														
-117	30	27	24														
-118	24	18	15														
-119	40	32	41														
-120	59	45															
-121	43	32	26														
-122		30	20														
-123	40	37	38														
-124	27	21	25														
-125	38	33	31														
-126	44	32	14														
-127		44	22														
-128	43	25	9														
-129	50	30	10														
-130																	
-131		27	18														
-132	24	22	16														
-133		40	24														
-134	30	28	20														
-135	30	28	9														

2) 出土遺物

I 土器 (第6、7、9~11図)

今回の調査では整理用コンテナ8箱分の土器が出土している。その時期は縄文時代前期末~後期、弥生時代後期の遺物が出土しているが、そのおおくは縄文時代中期初頭のものである。以下、時期毎に見ていきたい。

● 縄文時代前期末

3片の出土で数は少ない。拓59は半裁竹管による沈線区画結節文が渦巻状に施文されたものである。拓20は縄文地文の上に結節浮線文と素浮線文が貼付されたもので、胎土は外見上在地のものと同変わらないが、畿内の大蔵山式に類似する。また拓55は、口縁部に肥厚帯を設けその上を指頭押し、それ以下は縄文が施文される。口縁部に肥厚帯が設けられる土器はその下側に三角印刻文を入れるものが多く見られるが、やや様相が異なる。一応前期末に位置づけた。

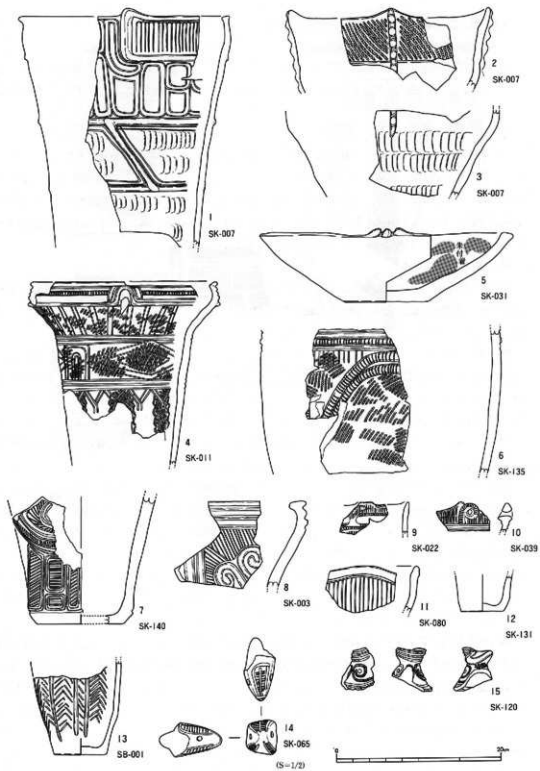
● 縄文時代中期初頭

今回の調査で最も多く出土したのがこの時期の土器である。この時期の土器は三上徹也氏の研究成果に基づき、縄文系、沈線文系、縄文系と沈線文系が折衷したものに分類され、時間差としてI・II段階に分けている。また、外来系と思われるのも僅かに存在するので、これは別に見ていきたい。

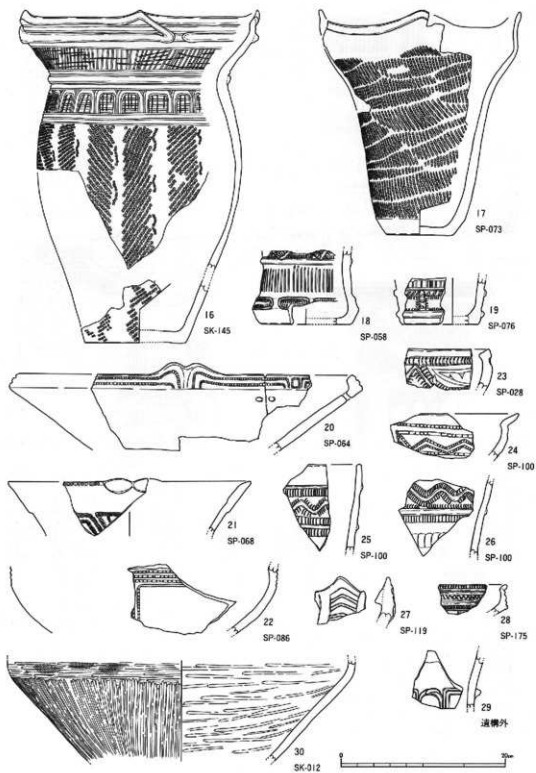
縄文系 いわゆる細線文系と呼ぶ土器で、第6図9・10、拓62はまさしく口縁部に細線文をもつ。また口縁部が縄文施文のものとして拓1・15がある。拓16・43は胴部の破片で空白部を持つ結節羽状縄文が施文されている。これに対し、拓2・6・24・30も縄文施文の胴部破片であるが空白部がみられない。前者はI段階、後者はII段階とされている。拓32・44には「Y」字状文が見られI段階の特徴とされている。拓54・61には縄文地文に半裁竹管沈線による「B」字状文が見られ、拓57・58・63には縦位に垂下する隆線文・沈線文と縄文が見られるが、両者ともII段階になると思われる。

沈線文系 半裁竹管状工具による沈線文を特徴とするもので、縄文施文がないものを扱う。28、拓5・25・29・33・45は「く」字状に内折する口縁部の破片で、口唇部は爪形文が連続施文され、屈曲部までの間には格子目文が見られる。この屈曲部から頸部までに該当する破片は拓12・26・34・46であるが、間隔を置いた縦位平行沈線(拓34)と間隔を持たない(拓12・26・46)ものがある。なお拓12は沈線文の上から円形の刺突がされており前期末の文様要素が伺える。頸部以下胴部のものとして縦位沈線施文の拓4、幾何学的文様が見られる拓11、「∩」状に区画されたもの(拓28・39・41)、格子目文の見られるもの(拓18・48・60)などがある。

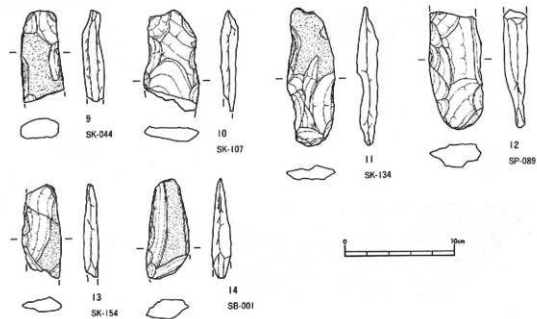
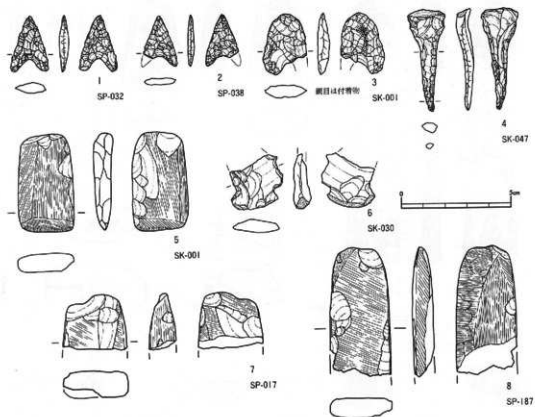
縄文系と沈線文系が折衷したもの 第6図4は器形的には沈線文系であるが、頸部の間隔をおいた縦位平行沈線文の地文と、その下の半裁竹管沈線による幾何学的文様の地文に斜縄文が施文され、更に下には空白部を持つ結節縄文と「Y」字状文が見られ、明らかに両要素が折衷している。また、口縁部の瓦状押し文、胴部の幾何学的文様に渦巻状モチーフが崩れたと考えられるものが使われている点、古い要素が残存したと考えてよいのだろうか。なお、この資料と同じく頸部に間隔をおいた平行沈線文の地文に縄文が施文されるものとして拓13・14・17がある。第7図16は、器形と口縁部から頸部までの文様は沈線文系II段階であるが、頸部以下は結節を伴うLR_L^{RL}の縄文が縦位に空白部をもつ形で施文されており縄文系I段階の様相を呈す。この資料のように胴部の縄文に反燃の原体が見られるものとして



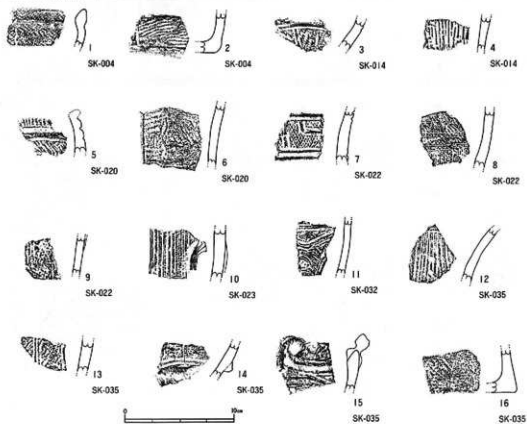
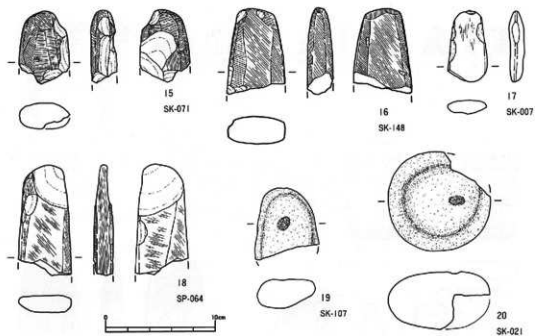
第6图 出土土器実測图(1)



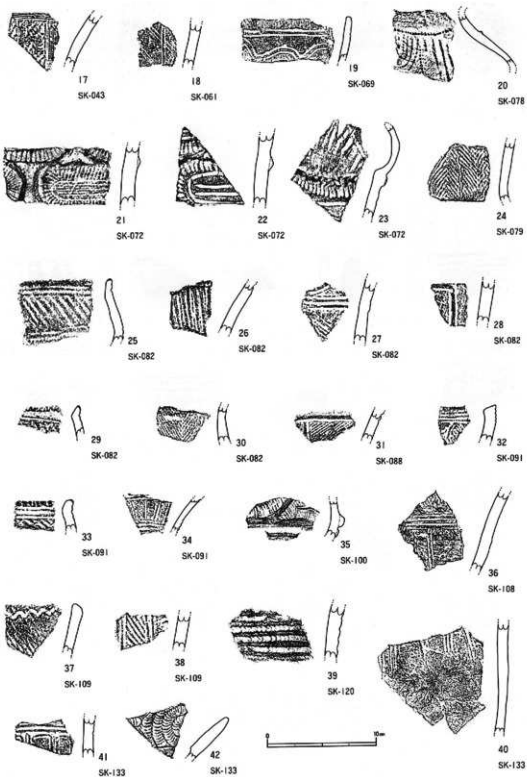
第7图 出土土器尖测图(2)



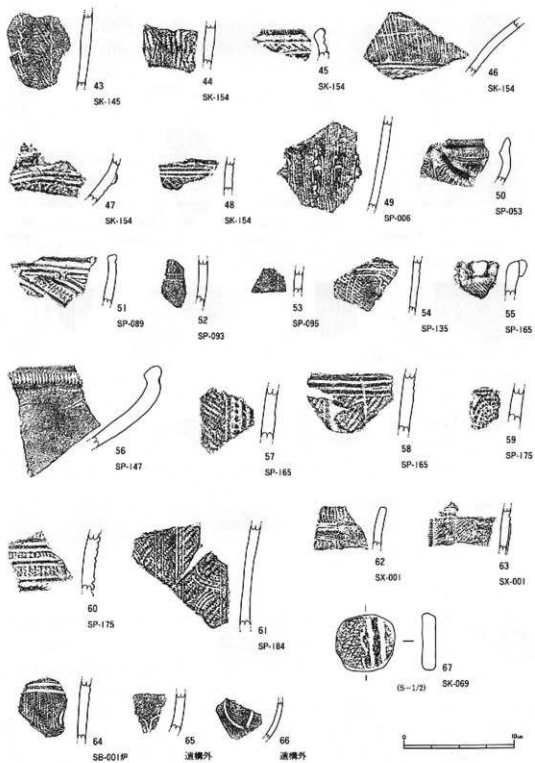
第8圖 出土石器実測圖(1)



第9圖 出土石器実測圖(2)・出土石器拓影(1)



第10图 出土土器拓影(2)



第 11 图 出土土器拓影 (3)

松本市林山越遺跡、同向畑遺跡出土の資料がある。

外来系 拓49・64には燃糸文が見られ北陸系の土器と考えられる。特に拓49は、胎土が明らかに在地の土器と異なり搬入品と見てもよいのではないと思われる。また拓7も北陸的要素が見られる。

④ 縄文時代中期中葉

第6図1は、口縁部に隆帯によって区画された中を蓮華文によって充填する文様が見られ、胴部の横走る隆帯までの間にはパネル文も見られる。それ以下には指頭瓦痕文が多用されており、器形の上部は北陸的要素、下部は東信地方の斜行沈線文土器の要素によって装飾された土器と言えよう。15の口縁部の特殊な突起、29に見られる区画文脇の貼付文も斜行沈線文土器であろう。2は縄文が施文された上に連鎖状隆帯の見られるもので、3は同一個体かと思われるが指頭瓦痕文も見られる。松本平で僅かに見られる資料であるが新道式期と思われる。17は口縁が4単位の波状口縁となり、口縁端部を肥厚させ胴部に全面縄文施文されているが膝内Ⅱ式になると思われる。拓40は平出Ⅲ類Aの胴部破片と思われるが明確な時期は分からない。その他として、連続角押文がみられる20・22・24・拓19は猪沢式、押し爪形文の見られる新道式の23・25・26、藤内式の6・7・18・19、拓21～23、井戸尻式の11・12があるが特筆すべきものはない。

⑤ 縄文時代中期後葉

曾利Ⅰ式の27、曾利Ⅱ式の8、曾利Ⅳ式の13が該当するのみで、量は少ない。

⑥ 縄文時代後期

壱被葬墓のSK-031より出土した5と、遺構外から出土した磨消縄文が見られる拓66がある。5は口縁部に2単位の突起があるのみで文様も見られないため時期を決定していないが、後期を中心に壱被葬墓が見られることからこの時期とした。

⑦ 弥生時代後期

30のみで、内外面とも丁寧なミガキが施され外面の一部に朱が認められる。箱清水式だろう。

II 石器 (第8、9図)

石鏃3点、石錐1点、石匙1点、打製石斧6点、磨製石斧4点、小型磨製石斧3点、凹石2点が出土した。第8図3の石鏃には柄に固定するために使われたと思われる付着物が認められた。

3 まとめ

今回の調査は280㎡という小規模な調査であったが、住居址1、土壇・ピットあわせて378基が発見され、まさしく足の踏み場もないという状況だった。

SK-031の壱被葬墓は山形村では初めての発見であるのに加え、松本平を見ても塩尻市御堂垣外遺跡、波田町葦原遺跡、明科町北村遺跡等に類例が求められるだけで貴重な発見であった。調査で一番多く発見された縄文時代中期初頭の土器に関しては、燃糸文のついた北陸系の搬入品と考えられる土器片や、大歳山式という畿内系の土器片が発見され、当時から山向こうの人々と交流が行われたことを裏付ける資料であり興味深い。また在地の土器に関しても、松本平で多く発見される資料ではなく今後この時期の研究を進めるのに不可欠な資料だと思われる。これに続く時期の資料としてSK-007から発見された土器(第6図1)があるが、上半が北陸系、下半が東信の斜行沈線文土器系であり、同一器面上に両要素

が表現されたあまり類例のないものと思われる。

淀の内遺跡は今まで縄文時代中期中葉から後葉の資料が大半を占めていたが、今回は中期初頭の土壌群が発見され、今後の調査によって遺跡のどの場所に当該時期の住居址が発見されるのか非常に興味深い。また、調査前の段階で推測されていた環状集落の北側の発見と集落構造の解明は、今後の調査における課題である。

中町立道西遺跡 第1次調査試掘

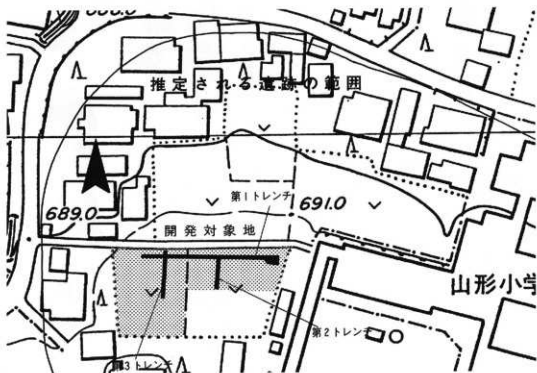
対象地	長野県東筑摩郡山形村3834-7他16筆
調査期間	平成9年8月25日～平成9年8月29日
開発対象面積	1,278㎡
発掘面積	42㎡
調査原因	民間宅地開発4区画及びこれに伴う進入路の設置

1 はじめに

中町立道西遺跡は三間沢川と鳴音川の間に取り残された台地上に位置する。現在は山形小学校の敷地がほぼ覆い、西は下大池公民館に至る範囲に遺跡が推定されている。今までに学術的な調査は行っていないが、大正13年に山形小学校校舎建築のとき弥生時代後期の甕が出土、小学校のどこであるかは不確かだが弥生時代中期の壺が出土、この付近から八稜鏡が3面出土したと言われており、昔から注目を集めていた遺跡である。この度小学校敷地に西接する場所で宅地開発が計画されたため、試掘調査を行い埋蔵文化財の有無を確認することとした。

2 調査の結果

調査地は、東側で50cm、西側で30cmの耕作土を除去するとルーム層に至るが、調査地の西端には一部



第12図 中町立道西遺跡位置図 (S=1/1,000)

ローム混じりの黄褐色砂礫層が見られ、ローム堆積後に鳴音川が作りだした扇状地砂礫層の堆積が一部及んだものと考えられる。調査は東西方向に第1トレンチ、南北方向に第2・3トレンチと計3本設け実施した。竪穴式住居址1、土壇10、ピット9、溝址1が検出された。

① SB-01

第1トレンチの東端で検出された。住居址はかなり削平されており、最も残存状況が良い場所でも壁高7cmしかなかった。床はロームを掘り込みそのまま床面としているが踏み締められた痕跡もなく軟弱であった。南側を拡張したが炉址は検出されず、ピットは7基検出されたが、最も深いもので20cm程度である。覆土中から縄文時代前期末の土器(第13図2・4～9)が出土した。2は口縁部に貝殻状貼付文が見られる諸磯C式の土器である。4・5・7は集合条線が施文され、4にはボタン状貼付文も見られる。6・8は集合条線の上に結節浮線文が渦巻状に配され、9は集合条線の上に結節浮線文が棒状に貼付されている。これらの特徴から下島式期に帰属すると考えられる。

② SK-01

第1トレンチの東側、SB-01の2m西に位置する。東西88cm、深さ31cmを計るが南側は調査区域外におよぶ。覆土は3層に分けることができたが、底から15cm程浮いた状態で縄文時代中期初頭の土器(第13図1)が出土した。口縁端部にソーメン状の細い貼付文が見られることから、中期初頭でも古い要素をもつ土器である。

③ SK-05

第3トレンチの中央に位置する。南北で58cm、深さ34cmを計るが、西側は調査区域外に及び南側は攪乱されている。覆土中から縄文時代中期末曾利V式の土器(第13図3)が出土した。

3 ま と め

今回の試掘調査では調査区の全域から遺構が検出され、第1トレンチ東側と第3トレンチでは密な状況であった。第1トレンチ東端では縄文時代前期末の住居址が検出され、山形村では下竹田唐沢遺跡につぐ発見であり、また第3トレンチでは少量ながら中世の遺物が出土する遺構(SX-01、SK-06・07・08、SD-01)が検出された。よって試掘調査の結果、宅地開発にあたっては埋蔵文化財の保護対策が必要であると判断された。

一 参 考 文 献 一

- 赤塩仁・三上徹也 1994 「下島式・曙ヶ峯式の再提唱とその意義」『中部高地の考古学IV』縄文セミナーの会 1987 「第8回縄文セミナー 中期初頭の諸様相」
- 寺内隆夫 1996 「斜行沈線文を多用する土器群の研究」『長野県の考古学』
- 長野県史刊行会 1988 『長野県史 考古資料編』全一巻(四)
- 長野県埋蔵文化財センター 1987 「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1」
- 長野県埋蔵文化財センター 1988 「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書2」
- 松本市教育委員会 1989 「松本市向畑遺跡II」
- 三上徹也 1987 「梨久保式土器 再考」『長野県埋蔵文化財センター 紀要1』
- 山形村教育委員会 1971 「長野県東筑摩郡山形村唐沢・河遺跡 緊急発掘調査報告書」
- 山形村教育委員会 1987 「殿村遺跡」
- 山形村教育委員会 1997 「淀の内遺跡」

洞遺跡 第3次調査（試掘）

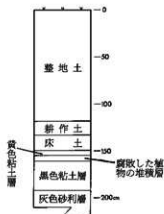
対象地	長野県東筑摩郡山形村23番地1・3
調査期間	平成9年10月13日・14日
開発対象面積	477㎡
発掘面積	25㎡
調査原因	個人宅地開発

1 はじめに

遺跡の南方200mの山麓沿いにある湧水から流れ出る小河川沿いに立地し、北方へ緩やかに傾斜している。昭和45年に行われた第1次調査では、縄文時代中期の住居址が21基、平安時代の住居址が4基、弥生時代の埋壙が発見され当時としては多大な成果を得た調査として知られている。また平成7年に第2次調査（試掘）が行われ、再度縄文時代中期の集落跡であることが確認されたが、両調査とも調査面積が小さく集落の構造を解明するにはいたっていない。

2 調査の概要とまとめ

開発対象地は元々水田であったが仮置き土が1mほど堆積しており、トレンチを1本設定するにとどめた。この1mの堆積土を除去すると水田面が現れ、水田耕作土を除去すると水生植物が腐敗したと考えられる堆積が10cm程あり、その下には30cm程黒色粘土が堆積していた。水田になる前は湿地帯になっていたと考えられる。またその下には灰色の砂利層が堆積していたが、深さが2mに至ったため作業の安全を考えこれ以上の掘削を断念した。なお遺物の出土はなかった。以上から当地における埋蔵文化財保護対策は必要ないと判断された。



第15図 基本層序



第14図 河遺跡第3次調査位置図 (S=1/2,500)

下耕地遺跡 第2次調査（試掘）

対象地	長野県東筑摩郡山形村482番地、484番地1
調査期間	平成9年10月8日～平成9年10月13日
開発対象面積	2,103㎡
発掘面積	45㎡
調査原因	民間宅地開発8区画

1 はじめに

下耕地遺跡は、縄文時代中期の集落址が発見されている淀の内遺跡、洞遺跡に挟まれる位置にある。平成8年に小規模な第1次調査が実施され、縄文時代中期と平安時代の竪穴式住居址が各々1基ずつ検出されているが、遺跡の範囲・構造などは判明していない。

2 調査の概要とまとめ

開発対象地は、上大池区洞地籍から流れ出る小河川がつくりだした谷状地形内に位置し、現在も小さな農業用水が対象地に西接する位置を流れている。試掘調査前から集落址の検出は予想されなかったが、水辺利用の痕跡が見られないかを念頭に調査を進めた。対象地は現地表面から1m迄は圃場整備前と後の耕作土が堆積しているが、それ以下は砂や砂利層が見られ河道になった様子が伺えた。この砂利層中には、上流の洞遺跡から流れ込んだと思われる遺物が見られた。以上から、宅地開発における埋蔵文化財への影響は甚だ軽微と判断されたため埋蔵文化財保護対策は求めなかった。



第17図 基本層序



第16図 下耕地遺跡第2次調査位置図 (S=1/2,500)

調査前全景 (北から)



遺構検出状況 (北東から)



遺構検出状況 (南西から)





SB-001 (北から)



SP-100 (西から)



SK-007 (西から)



SP-073 (東から)



SP-064 (西から)



SK-031 (東から)



SK-150 (西から)



SK-107 (東から)



SK-022 (東から)



SP-165 (西から)



SB-001 炉 (東から)



SK-145 (東から)



SK-028 (南から)



SK-011 (西から)

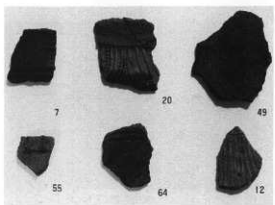


完掘 (北東から)



作業風景

図版 4 淀の内遺跡第2次調査 出土遺物



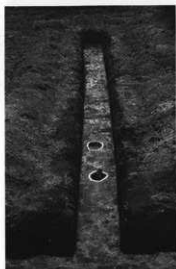
SK-150出土 磨石接合資料



調査前全景 (西から)



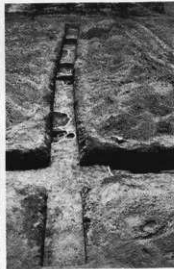
SB-01 (西から)



第1トレンチ (西から)



第2トレンチ (北から)



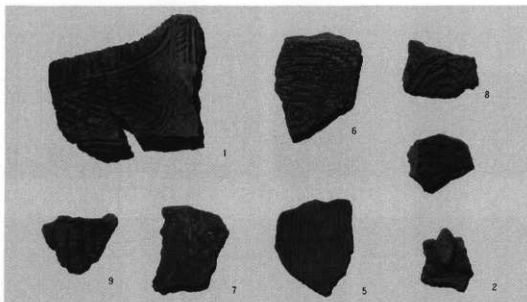
第3トレンチ (北から)



SK-01 (西から)



SK-04 (北から)



中町立道西遺跡出土土器



下耕地2次 全景(北から)



洞3次 調査前全景(南から)



洞3次
トレンチ全景(西から)



洞3次
基本層序

報告書抄録

ふりがな		やまがたむらまいぞうぶんかざいちょうさねんぼう (へいせい9ねんどっこほじょじぎょう)						
書名		山形村埋蔵文化財調査年報 (平成9年度 国庫補助事業)						
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名		和田 和哉						
編集機関		山形村教育委員会						
所在地		〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村 2040-1 Tel0263-98-3155						
発行年月日		1998年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
よどのうち 淀 の 内	468番地1		3	137° 52' 43"	36° 9' 4"	970901 ～ 971008	280㎡	個人宅地 開発に伴う 記録保存
なかまちた ちみちにし 中町立道西	3834番地7 他16筆		15	137° 52' 35"	36° 9' 54"	970825 ～ 970829	42㎡	民間 宅地開発 に伴う試掘
ほら 洞	23番地1 23番地2	東筑摩郡 山形村	204501	137° 52' 39"	36° 8' 52"	971013 ～ 971014	25㎡	個人 宅地開発 に伴う試掘
しもこうち 下 耕地	482番地 484番地1		3	137° 52' 40"	36° 8' 55"	971008 ～ 971013	45㎡	民間 宅地開発 に伴う試掘
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
淀 の 内	集落址	縄文中期	竪穴式住居址 1 土壌 157 ピット 221	縄文中期初頭の土器 縄文後期變被葬墓の浅鉢		・縄文中期初頭土器の出土 北陸系輸入品や畿内系(大藏山式)出土 ・變被葬墓の検出		
中町立道西	集落址	縄文前期末 中世	竪穴式住居址 1 土壌 10	縄文前期末土器		・縄文前期末(下島式)の住居址検出		
洞	集落址	縄文中期						
下 耕地	集落址	縄文中期						

山形村埋蔵文化財調査年報

(平成9年度 国庫補助事業)

平成10年3月25日 印刷

平成10年3月31日 発行

編集・発行 山形村教育委員会

印刷・製本 もえぎ企画書籍